

みらい平クリニック主催 人形劇団プーク公演

タマゴ ～めんどりコッカとすてきな仲間 あや と じろきちおおかみ

日時 H27年9月13日(日) 14時開場
14時30分開演(上演時間80分) 入場無料
場所 小張小学校 体育館

公演演目について

タマゴ： 太陽がゆっくりのぼって、朝。コッカのふところに4個のタマゴ。

1羽、2羽、3羽と生まれ、最後のひとつが???

おんどりペルコがさわぎだし、カラス、ブイチョ、マルコ、コゼラがやってくる。われない、われない、われない……。

あやとじろきちおおかみ： 子どもの 泣き声と笑顔にかなうものは ない

いつか 乱暴者の心の中に 遠く わすれていた あったかく

懐かしいものが こみあげて くる

人形劇団プークについて

1929年(昭和4年)創立。新宿にプーク人形劇場を構え、その他にも全国様々な会場で年間を通してこどものための作品や大人のための作品を上演しています。テレビでは、スタジオ・ノーヴァとして「新・三銃士(NHK)」等皆さんもよくご存じの番組の制作をしています。

みらい平クリニック院長からご挨拶

みらい平に来てもらうのは今年で7回目！今年はどうなお芝居かな？

子供も大人も楽しめる 本物の人形劇です。是非ご家族でおいでください。

お願い 上履きをご持参下さい。

小さいお子さんは床に座っていただきますので、座布団を持ってきていただくといいと思います。折りたたみのイスをお持ちのお子さんをご持参ください。場所を譲り合って、みんなで楽しく観劇しましょう。

駐車場の都合がございますので、できるだけ車は乗り合わせておいでください。

タマゴ

～めんどりコッカとすてきな仲間～



小学校体育館・小会場用上演作品 「あやとじろきちおおかみ・タマゴ」

上演時間	1時間20分 (休憩15分含む)	構成	キャスト4名	スタッフ1名	／計5名
運搬	2 tトラック 1台/2名	公共交通機関利用	3名		
諸経費	(上演料+交通費+車両経費+宿泊費)+宣伝材料費				

● お申込み・お問合せ ●

人形劇団プーク ☎ 03(3370)3371
〒151-0053 渋谷区代々木2-12-3

FAX 03(3370)5120
ホームページ <http://www.puk.jp>
Eメール puppet@puk.jp



▼マルコ



▲コゼラ



カラス

— すてきな仲間たち —

とき うま
時間がくれば 誕生れるものを
おとなは がまんできない
待てば いいのに
イライラ ワイワイさわぎだす
でも これは楽しみ
おとなの すてきなカーニバル



タマゴ

平成5年度厚生省
中央児童福祉審議会推薦作品

～めんどりコッカとすてきな仲間～

上演にあたって

生命の誕生には不思議がいっぱい、期待と不安が、希望と絶望が渦巻く末にやがて訪れる歓喜の瞬間。私たちは、この神秘と尊厳さにいつも心を震わせます。割れないタマゴをめぐり、めんどりコッカとすてきな仲間達がくりひろげる大騒動は、私たちがどれほど暖かくほのぼのとした気持ちにさせてくれることでしょう。

ブルガリアの脚本をもとに、斬新な演出で話題をよんだ舞台をお楽しみください。

あらすじ

太陽がゆっくりゆっくりのぼって、朝。コッカのふとこころに4個のタマゴ。

1羽、2羽、3羽と生まれ、最後のひとつが???。
おんどりペルコがさわぎだし、カラス、ブイチョ、マルコ、コゼラがやってくる。

われない、われない、われない……。



作/ボリス・アプリロフ
翻訳/竹内将晃
潤色・演出/岡本和彦
美術/星野 毅
音楽/長沢勝俊
照明/阿部千賀子 (第一ステージサービス)
音響効果/宮沢 緑



人形劇団
プリック



平成5年度厚生省児童福祉文化賞

(厚生大臣賞グランプリ)受賞

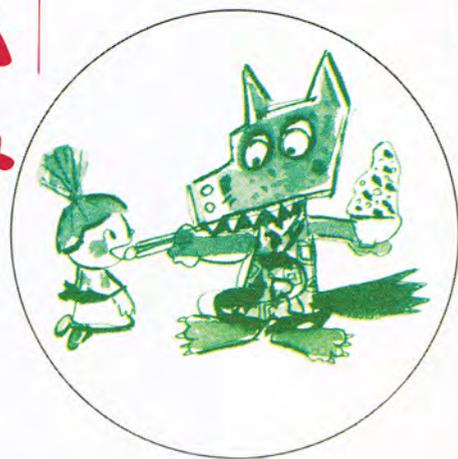
あやも じりきんちんおあがみ



併演/タマゴ



こどもの 泣き声と笑顔に
かなうものは ない
いつか 乱暴者の心の中に
遠く わすれていた
あったかく 懐しいものが
こみあげて くる



平成5年度
厚生省グランプリ受賞作品

あやとじろきちとおおかみ

おおかみのじろきは、ひねくれた乱暴者で嫌われ者である。

それはこの物語の世界で、狼は残虐で怖い悪者という周囲の偏見の中でひねくれてしまったと思う。そのじろきちが、小さくて柔らかく「旨そうなおんなのこ「あや」を拾った。食欲全開のじろきは「三年たてばたらふく食える」と、牛のとつあんに知恵を付けられて、せつと育てることになる。「うんと喰って大きくなれや」「はい、じろきちありがと」「下、心満載のじろきちと、あやの一見矛盾した会話だが、全身で信じて頼るあやとの触れ合いに、ついには「あやは俺の大事な子だ！」と本音が吐露される。

このお話は、おおかみのじろきちが、小さなあやを育てる話だが、じつは、あやを育てること、じろきちが育てられたのだ。そこに至るまでに重要なのは、物語のはじめ、日暮れの峠で「生きたい！」という命の叫びに似たあやの泣き声にあると思う。そしてもう一つ、じろきちのすべてを受け止めた牛のまんさくとつあんの包容力も。

親子揃って観ていただきたい人形劇です。

〈人形劇の新発見〉

生越嘉治

心温まる作品で、きつと観客の子どもたちの共感をよぶことだろうが、成功の第一の原因は「あや」の人形にあると私は思う。

オオカミが人間の赤ん坊をさらつてきた。が、「すぐ食うより大きくしてから食うほうがとくだぞ」と知恵をつけられ、苦心して育てる。やがて赤ん坊が大きくなったころ、オオカミは「おれはこの子を命がけて守る！」と言つようになつていった。こんな意表をつく展開でありながら「なるほど」とうなずかせ、ほのほのとした気持ちにさせてくれるのは物語の力である。しかし、それを劇に見せる場合、観客が共感するというのは赤ん坊を愛するようになることである。だから「あや」の表現が決め手になる。

大胆なデザインと、その大きな口をいっぱいに開けて泣く動きのおもしろさ、かわいらしさ。

「あや」は、人形劇の新発見と言いたくなるほど新鮮であった。

(日本児童劇作の会会員 中央児童審議会審議委員)



原作／矢玉四郎
脚色／野田牧史
演出／渡辺真知子
人形美術／佐久間弥生
装置／斉藤英一
音楽／長沢勝俊
照明／阿部千賀子 (第一ステージサービス)
音響効果／宮沢 緑